

## 1 研修計画の立案

教員一人一人の指導力や教育課題に対応する力を高めるために授業研究を4回計画した。教員の約半数が若手教員である本校では、常日頃から他の教員の授業を参観して学ぶように指導していても、実際に参観できる時間がないのが現状であり、校内研修を利用して参観できることは各教員にとって貴重な時間となる。最終的には全ての教員が必ず1回は授業研究を行う計画にした。ただし、校内研修であるため、研究テーマと一致しない研修内容も行った。

月	日	曜	内容
4	20	水	生活指導、本年度の予定
5	18	水	特別に配慮を要する生徒、授業研究
6	1	水	課題研修①（特別支援に関する研修会）
6	29	水	小中合同研修①（山崎中・道徳授業）
7	20	水	服務事故防止研修①
8	30	火	課題研修②（メンタルヘルス）
9	14	水	小中合同研修②（近隣小学校・協同的探究学習）
9	28	水	授業研究①（保健体育、英語、英語、）
10	26	水	授業研究②
11	30	水	授業研究③
12	22	木	服務事故防止研修②
1	18	水	授業研究④（数学、国語、保健体育、社会）
3	7	火	授業研究⑤（数学、英語、英語）

## 2 授業研究の実施

### （1）公開授業（9月28日）

1回の授業研究で、公開授業者4～5人が授業を行い、教科はまちまちのグループを編成し参観した。

授業参観後の協議会では、各グループに分かれて各教員が感想や助言内容をふせん紙に記入し意見交換をする。以下は複数の教科における意見の一例である。



付箋の色 （青）良かった点 （赤）改善が必要な点 （黄）疑問に思ったこと・改善点

観察の視点	内容
ねらいの提示・まとめ	青→・本時のねらいや流れを黒板に残しておくことで生徒に伝わりやす。 ・ねらいが板書しており、全員がわかりやすい。
提示・発問	赤→・大きな声で表情を付ける。⇒授業者がもっと楽しそうにオーバーアクションするとよい。 ・一つ一つの指示の明確化。⇒Repeat か Listen かはつきりするように。 ・先生が説明するときはもっと集中して聞かせた方がよい。
授業展開	青→・楽しく取組む工夫があり、授業の目的を達成できた。 ・班活動、ペア活動に全員参加していた。 赤→・全体的に間延びしていたので流れを再考する。 ・導入のペアトークをもっとスピーディーにした方がよい。 ・ピクチャーカードによる反復練習が少し長い。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの時間をしっかり確保したい。</li> </ul> 黄→・体操や補強運動は体育委員に任せていいのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動に時間をかけた意図は何か。</li> <li>・なかなか理解できない生徒にどのような声かけをするのか。</li> <li>・ランニングの目的はなにか。</li> </ul>
評価	赤→・本時のメインの構文が板書されていない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に which が使えるようになったか確認する時間をとるとよい。</li> <li>・チェストパスが目標なのにシュートが目標になった。</li> </ul>
○教材・教具	青→・写真やイラストが多くて分かりやすい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で話題性のある教材を使っていた。</li> </ul>
○その他の工夫	青→・授業の展開経過がわかる工夫がよい。 赤→・授業規律（整列、動きの速さ、話を聞く姿勢）

これにより、授業者だけでなく、参加者全員が内容を共有できた。

## (2) 理科の実践例

### 1 主題（単元・題材）名・資料名

自然環境の保全と科学技術の利用（大日本図書）

### 2 主題設定の理由（指導における自分の考え方）

#### (1) ねらいとする価値について（単元観）

日本のエネルギーを取り巻く環境は大きく変化している。このような社会環境の中に生きていても発電の基本的な仕組みについて理解している生徒は少ない。この単元では、発電の仕組みや、日本のエネルギー消費量の変化、再生可能エネルギーについて学習する。得た知識をもとに、将来の日本の発電方法について深く考え、今後の人生に生かしていく姿勢を養いたい。

#### (2) 資料について（教材観）

はじめに、発電の仕組みや水力発電、火力発電、原子力発電のメリット、デメリットといった基本的な知識を定着させる。そのうえで、再生可能エネルギーや射線の影響など、より深い知識を得るために、図書館やiPadを利用して、深い学びを促す。知識を得たうえで、「20年後の日本のエネルギーベストミックスを考える」というテーマで発電割合の円グラフを記入させ、他者と協同してさらに生徒のエネルギーに対する関心を高めさせる。

#### (3) 単元の指導計画

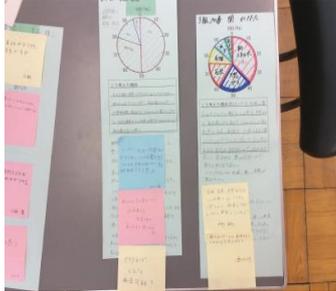
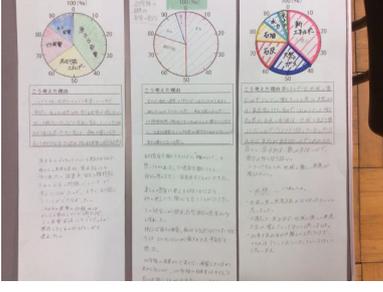
時数	ねらい	学習活動	評価
1	日本のエネルギーの消費量を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エネルギー消費量に関する説明を聞く</li> <li>●1人当たりのエネルギー消費量を求める</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> ワークシート
2	発電のしくみについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発電のしくみに関する説明を聞く。</li> <li>●水力・火力・原子力発電のメリットとデメリットについて話し合う。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 行動観察
3 4	再生可能エネルギーについて調べ、20年後の日本が歩むべき発電割合を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●iPadや図書館の資料、自宅から持ってきた資料を活用して、再生可能エネルギーについて調べ、20年後の日本が歩むべき発電割合を考える。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> ワークシート

5 本時	他の人の意見を聞きながら、発電割合について再考し、エネルギーに関する関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時で記入したワークシートを教室の壁面に張り、付せんを使って意見の交流をする。</li> <li>●話し合い活動の後、個人で発電割合について再考する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思</div> ワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">関</div> ワークシート
---------	---	--	--

(4) 本時のねらい

他の人の意見を聞くなどの、話し合う活動を通して、発電割合について再考しエネルギーに対する関心を高める。

(5) 展開

展開	備考
<p>1 導入問題</p> <p>○「日本の20年後のエネルギーベストミックスを考える」。</p>	<p>【導入問題のポイント（よさ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正解がなく、どんな意見でもよい点。</li> <li>○自分が調べた事や、これまで学習した発電方法をふりかえることができる点。（できる学力）</li> </ul>
<p>2 個別探究（3・4時）</p> <p>個別探究中ヒント、留意点、工夫など</p> <p>○これまで学習したことや、自分が調べた発電方法をもとに、20年後の日本の発電割合について円グラフにまとめ、その理由を記入する。</p>	<p>【考えやすい工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のデータを調べやすいように、iPadを4台用意する。</li> <li>○政府が出している、2030年発電割合を例として提示する。</li> </ul>
<p>3 協同探究（本時）</p> <p>○発電割合が最も多いものを（火力・原子力・再生可能エネルギー）の3つに種類分けする。</p> <p>○最も多い発電方法の種類ごとにワークシートを教室壁面に張る。</p> <p>○交流活動を行う。</p> 	<p>【協同探究の進め方、工夫】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①発電割合が最も多いものを（火力・原子力・再生可能エネルギー）の3つに種類分けする。</li> <li>②教室の壁面に、種類ごとにワークシートを張る。</li> <li>③意見を自由に見回る。気づいたことなど、3種類の付せん意見を記入して、ワークシートに貼る。</li> <li>④貼られた付せんを基に自分の意見を考察する。</li> </ol>
<p>4 展開問題</p> <p>○活動を通して、自分の意見の振り返りや修正など学んだことをワークシートに記入する。</p> <p>○書いたことを発表する。</p> 	<p>【展開問題のポイント（よさ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな発電割合であっても正解はないということを伝える。</li> </ul>

(6) 【生徒の感想】

○今まで発電のことなんて考えたこともなかったが、自分の生活に大きく関わっていることが、この学習を通して理解できた。

○今後の日本の発電方法を作るのは自分たちの責任だと感じた。

### 3 小中合同研修会の実施（9月14日）

小中合同研修会においては、小中9年間を見通して、小・中学校の教育活動の連続性を確保し、発達段階に応じたきめ細やかな指導を行うことをねらいとして、近隣の小学校と研修会を年2回実施している。

具体的には、中学校教員が小学校で授業参観し、どのような指導方法でどの程度までの内容を授業しているのか、その現状を知る。その結果、中学校においてきめ細かく指導をつなげることができた。小学校教員にとっ

ては、卒業した児童が中学校でどのような学習をしているか確認することができる。授業参観後は、教科別に分かれて協議会をすることで現状理解がさらに深まった。

この研修会を継続することにより小中9年間の教育活動の連続性意識するとともに、よりよい授業を実践するために参考にすることができた。



### 4 成果

- ・授業公開への抵抗感がなくなってきた。
- ・授業者は常に授業のまとめで「ねらい」にかえることを意識し実践できた。
- ・初任者は、授業規律はどのようにあるべきか、実践や協議をとおして体感することができた。
- ・他教科の授業でも、自分の教科と共通する部分を感じ取ることができ各教員が参考にするようになった。
- ・小学校と連携することで、学びの連続性について意識が高まった。
- ・校内で組織的に学び合う教員集団となった。

### 5 課題

- ・基本的な授業の構成や進め方を習得することはできたが、さらに授業を工夫し授業力の向上に努める。
- ・研究テーマは「協同的探究学習を意識したアクティブラーニングの実践」であるが、本年度はその段階まで到達できず、準備段階に留まり次年度が本格的に取り組むことになる。

以上のような課題がある。今後も継続して取り組み、本研究のねらいが達成できるように教員全員で取り組んでいく。